



福島県立梁川高等学校

平成30年12月19日

校長通信

Team Yanagawa

vol. 35

■ 白鳥の群一望のときめきに (古館曹人)

先日、登校指導のため自転車置き場の前に立っていると、遠くから鳥の鳴き声が聞こえてきました。その声は徐々に大きくなり、やがて上空を白鳥の群れが北の方角へ飛んでいくのが見えました。後日、調べたところ五十沢地区を流れる阿武隈川に白鳥の飛来地があり、確かに白鳥はその方向に飛んでいったことに気づきました。冬の到来を告げる使者は雪をも連れてきたようで、12月8日、信達地方は夜から翌日の明け方にかけて、昨年より12日遅い初雪となりました。早速、校務員のSさんが年代物の除雪機のメンテナンスと試運転を始め、校舎には除雪機のエンジンの音が響き渡っていました。今年も残すところあとわずかとなりました。この一年、拙文をお読みくださり、ありがとうございました。良いお年をお迎えください。



■ クリスマスリースとメスキータの聖歌

我が家の玄関にクリスマスリースが飾られてから、1週間ほどが経ちました。今年もクリスマスが近づいています。言うまでもなく、クリスマスはイエス・キリストの生誕を祝う日であり、キリスト教圏の国々では、信徒にとって最も重要な祭日とされています。一方、日本など非キリスト教圏の国々でも、商業主義の影響によりクリスマスに関する様々な行事が行われています。実はクリスマスの翌日は私の誕生日です。幼い頃、クリスマスプレゼントと誕生日プレゼントを一緒にされ、両親に不平を言ったことがありました。子供を持つ身になった今、思い出すたび何て面倒な子供だったのだろうと自己嫌悪に陥るばかりです。

ところで、私にとって忘れられないクリスマスがあります。それは今から20年くらい前になりますが、冬休みを利用してスペインとポルトガルを巡るツアーに参加した時の出来事です。マドリッド、リスボン、エボラ、セビリアと移動してきた私達は、コルドバに入りました。遡れば10世紀のコルドバは、イスラーム教国の首都として人口50万を擁し、コンスタンティノープル、バグダットと並んで、イスラーム世界の芸術と文化の中心地でした。コルドバ観光の目玉は何と言ってもメスキータです。もともとメスキータは、イベリア半島がイスラームに支配された8世紀に建造されたモスクでした。その後、キリスト教徒による国土回復運動が展開する中、13世紀にカステイリャ王国がコルドバを征服すると、カトリックの礼拝堂に転用され、16世紀にはスペイン国王カルロス1世(神聖ローマ皇帝カール5世)がメスキータの中央部を巨大な大聖堂に改修し今日に至っています。

メスキータの内部は円柱が林立し、2層のアーチがそれを繋いでいく独創的な建築様式で建てられています。どこまでも果てしなく続くのではないかという錯覚に陥りながら、「円柱の森」を進んでいくと、突然、視界が開け聖マリア大聖堂の巨大な空間に到達します。私達が大聖堂の主祭壇の前に来た時、白いガウンを身にまとった少年合唱隊が入ってきて聖歌を歌い始めました。歌詞は定かではありませんが、おそらくイエスの誕生を祝う歌ではないかと思われ、クリスマスの時期に日本で流れる世俗的な曲とは全く違っていました。その歌は単純で律動的な旋律ではありませんが、明るく軽快な繰り返しが特徴的でした。少年達の透きとおるような歌声は、まるで歓喜を表現しているように大聖堂の内部に響き渡り、そこにいる全ての者を包み込みました。その時、私は鳥肌が立ったのを憶えています。あの時の歌声と大聖堂の荘厳な空気は決して忘れることはないでしょう。クリスマスリースがリングの形状をしていることから「永遠」の意味が込められているように、メスキータの聖歌の記憶は、永遠に私の心に生き続けるに違いありません。



二学期が
終了し、冬
休みが始
まります。

12月19日(水)は終業式でした。長かった二学期も終わり、12月20日(木)から1月15日(火)まで冬季休業となります。生徒諸君には、規則正しい生活を心がけ、計画的に家庭学習に取り組んで欲しいと思います。また、保護者の皆様には、休業期間中の家庭における子供さんを見守るとともに、子供さんの話に耳を傾けたり、いっしょに将来や進路について考えたりして、親子の絆を深めていただければ幸いです。また、スマートフォンを不適切に使用したり、SNSに関わるトラブルに巻き込まれたり、交通事故に遭ったりすることのないよう、ご指導をお願いします。1月16日(水)には3学期が始まります。始業式に元気な生徒諸君に会えることを楽しみにしています。

■ スーツ着こなし講座が行われました



12月5日、3年生のロングホームルームの時間は「スーツ着こなし講座」を行いました。洋服の青山さんから社員の方を講師にお招きし、スーツの正しい着こなしやNGポイント等について、具体的にお話をいただきました。また、実物のスーツを準備していただき、生徒諸君は卒業後の社会人になった自分の姿をイメージしながら、熱心に耳を傾けメモをとっていました。

■ 高校生のための栄養教室が行われました

12月10日と14日、2年生を対象に「高校生のための栄養教室」が行われました。伊達市中央給食センター栄養教諭の佐藤香代子先生をお招きし、「食生活を見直そう」の演題でお話をいただきました。生徒諸君は、バランスの取れた食事の大切さ、理想的な弁当の献立、間食の役割について学ぶとともに、健康づくりのために心がけたい食生活について認識を新たにしました。

■ 校内で授業研究に取り組んでいます その4

○11月19日の6校時、宮林寛樹教諭による数学Ⅱの授業では、3年生が「微分法」について学習しました。授業のめあては「微分係数は何を表しているか」。生徒達は「平均変化率」を復習してから、「微分係数」と接線の傾きの関係について学びました。電子黒板でグラフや接線の傾きを表すなど、ICT機器を活用し生徒の理解を深めさせる授業でした。

○12月7日の3校時、添川隆博教諭による体育の授業では、1年生がバスケットボールに取り組みました。授業のめあては「ゴールボードのどの位置にボールを当てればシュートが入るのかを考えゲームで実践する」。生徒達は積極的にシュート練習を繰り返しゲームでは全員がゴールを決めました。意欲を引き出し、適切な支援が行われた授業でした。

○12月11日の2校時、星信夫教諭による数学Ⅰの授業では、1年生が2次不等式について学びました。授業のめあては「2次式で表された不等式について学ぶ」「2次関数のグラフを使って不等式を解く」。生徒達はグラフとx軸との共有点が2個の場合の2次不等式の解の求め方を学びました。机間巡視を行いながら丁寧に分かりやすい説明がなされるとともに、生徒が考えたり作業したりする時間を十分に確保された授業でした。

■ 赤い羽根募金について

12月11日、生徒会長結城君と副会長齋藤君から赤い羽根募金活動で集まった募金を伊達市社会福祉協議会様へお渡ししました。募金は年末に伊達市から高齢者の方々に送られるおせち料理の資金になり、1700世帯に配られるとのこと。喜ばれる皆さんの顔が浮かんでます。



■ 歯科講話が行われました

12月12日、1年生を対象に歯科講話が行われました。学校歯科医の池田丈博先生をお招きし、「歯の健康から未来を考える」の演題でお話をいただきました。生徒諸君は歯を守るためには日常の予防と歯科医による早期治療が大切なこと、健康寿命を伸ばすには定期的な歯のメンテナンスが必要なことを学びました。



■ 音楽部が声楽アンサンブルコンテストに出場しました

12月7日、矢吹文化センターにおいて、第35回県声楽アンサンブルコンテストが行われ、音楽部11名が出場しました。期末考査が終了したばかりで、思うように練習時間が確保できない中、懸命に練習する姿が見られました。本番では3声部によるわらべうた4章より「じょうりぎ・とうかんや」「かずのうた」を披露しました。昨年度のラテン語によるミサ曲とは対照的に、日本語による童歌は歌詞の内容も理解でき、感情を込めて歌うことができました。銅賞までには入れませんが、奨励賞をいただきました。日頃の練習の成果を発表するとともに、他校の素晴らしい合唱を直接聴くことができ、生徒達にとって実り多いコンテストとなりました。



■ 自転車安全走行一斉指導がありました

12月11日、自転車安全走行一斉指導が行われました。登校時と下校時に学校坂下と鶴ヶ岡橋交差点において、自転車の安全走行を呼びかけました。県北地区では高校生の被害事故が多発しています。交差点での一時停止、夕方の早めの点灯を心がけ、スマホを操作しながら運転することのないようお願いします。

■ ワックスがけで床はピカピカ!

12月7日に教室、14日に廊下のワックスがけが全校一斉に行われました。クラス全員で教室と廊下を念入りに清掃した後、厚生保健委員の生徒がワックスがけを行いました。モップでワックスがけされた床はピカピカに光り輝いていました。

